

昔ぬ沖縄をて、同ぬ村ぬ親ぬ定みたる相手とに一びちすしやいびーたん。他所ぬ村ぬつ人とか、また身分ぬ違える侍とぬに一びちや、考一らん事やいびーたん。

ある日、首里ぬ若さる侍山戸ぬ名護ぬ許田んかいぬ道、急じょーいびーたん。

おー、うれしん暑さぬ。喉ぬ乾きて。おー、くれー見事ぬ清ら水！おー、飲み欲さしが、手ぬ汚れて。

側んちゃくと、清らさるみやらびぬ水汲どーいびーん。

あんし、清らさるみやらび！

山戸やー目し、恋心抱ちゃびたん。

あのー、みやらびよ、水飲み欲さしが、くまねーぬーぶぬ代わいないしらねーらん。手し掬いてしん、我一手や汚りーて。どーでん、うんじゅぬ手し掬て、飲まで、とらんさんがやー。

初めて行逢る御方んかい、手水うさぎーるくとーないびらん。

昔から、手水や志情き通わする時にする習わちやいびーたん。

ま、待って、とらし。水し飲まちとらさんだれー、我んねーくぬ川んかい飛び込もるくとんかいないん。

仕方ねーやびらん。あんせー、くりし宜さいびーみ。

ん、ん、ん。はあー、なーちけーん飲まで、くり。うんじゅぬ名や何んで？

あいえー！うー。玉津んで言ちょいびーん。

かんし、二人や思むよーいる仲んかんないびたん。

やしが、玉津ぬ村をて、身分ぬ当らんに一びちや許さらんくと。

玉津よ、百姓ぬ女ぬ分際し、御侍たぬかすんでっしえー、恥知らやー。

村ぬ男んあらん、首里ぬ侍とまじゅんないい。胴ぬ丈知らんやー。

許さん！

あんし、玉津や浜をて打ち首んかいないびたん。

どーでん、どーでん、助けて呉みそーり。つ人思いる心ー誰が止みーるくとないびーが。

うぬ時、山戸やみやらびぬ打ち首あきらみししって、早馬かきたんでん。

玉津、なましぐに助けがしぐと、ちゃーがな間に合て、くり。

(以下略)